



1 W50N50検出土坑(西から)右上は土坑底部出土土器(後期)



2 E10N80遺物出土状況(南から)



3 EWON50遺物出土状況(南から)



4 E20N70遺構・遺物検出状況(南から)



5 W10N60遺物出土状況(南から)



6 E25N60遺物出土状況(南東から)



7 E10N50南西隅の遺物出土状況

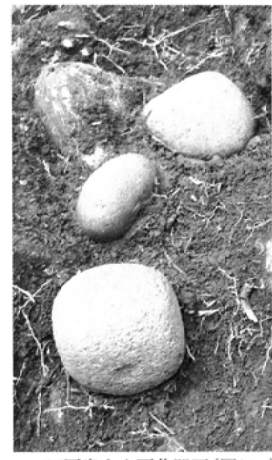


8 W40N70遺物出土状況(西から)

試掘坑(高倉林道以北)の調査状況



1 IN区遺構SP7検出状況(南から)



2 IN区出土六面体凹石(図24-7)



3 IS区検出遺構(SX4)



4 IS区検出大型遺構(SX5)掘下状況(北東から)



5 大型遺構SX5内、東隅検出遺構(SP)(北から)



6 IS区遺物出土状況(南から)※中央北寄りには石核



7 IS区における石棒(RQ31)と瘤付土器片伴出状況



8 II区完掘状況(西から)



9 IS区南部遺物出土状況(東から)

第I・II調査区の調査状況



1 遺構群検出状況(東から)



2 北壁至近の遺構(SP)検出状況(南から)



3 遺構SPIにおける磨石・凹石出土状況



4 遺構SP50半截アタリ確認状況(北から)



5 遺構SX6半截により底部から検出されたSP45・46(東から)



6 南拡張G区検出SK43の集石遺構(西から)



7 SK43至近出土の磨製石斧(RQ223)

第Ⅲ調査区の調査状況



1 調査区北部で検出された大形遺構平面プラン(南から)



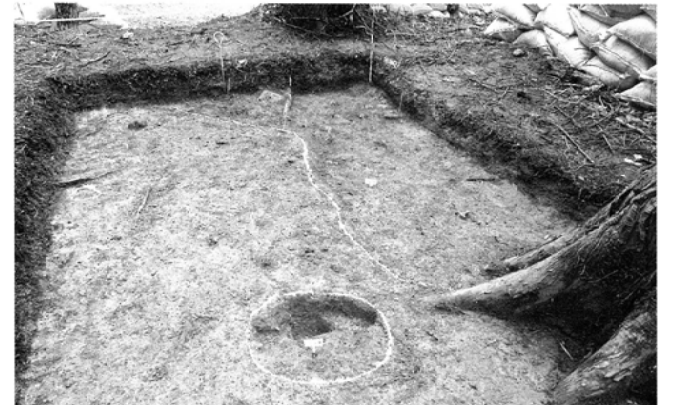
2 調査区北部遺構群精査状況(南から)



5 第Ⅳ調査区遺構群全景(南から)



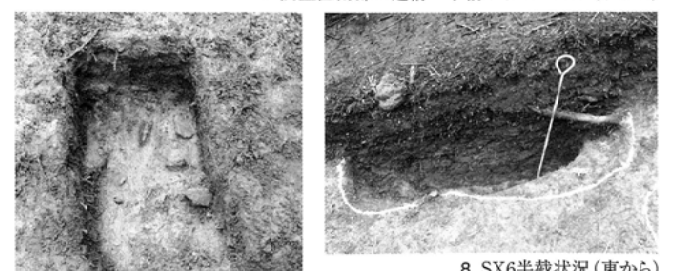
3 調査区北東隅層序と遺構プラン検出状況(南西から)



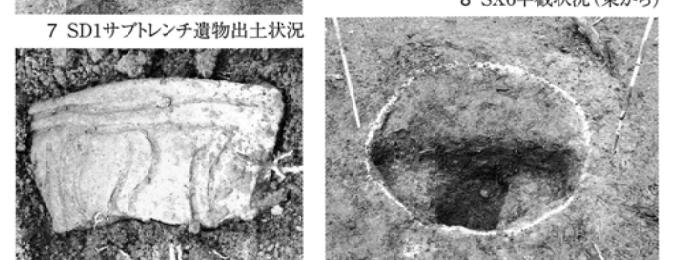
4 調査区南部の遺構 手前からSP1・SX5(北から)



6 調査区南方切通し壁面精査状況(南から)



8 SX6半截状況(東から)

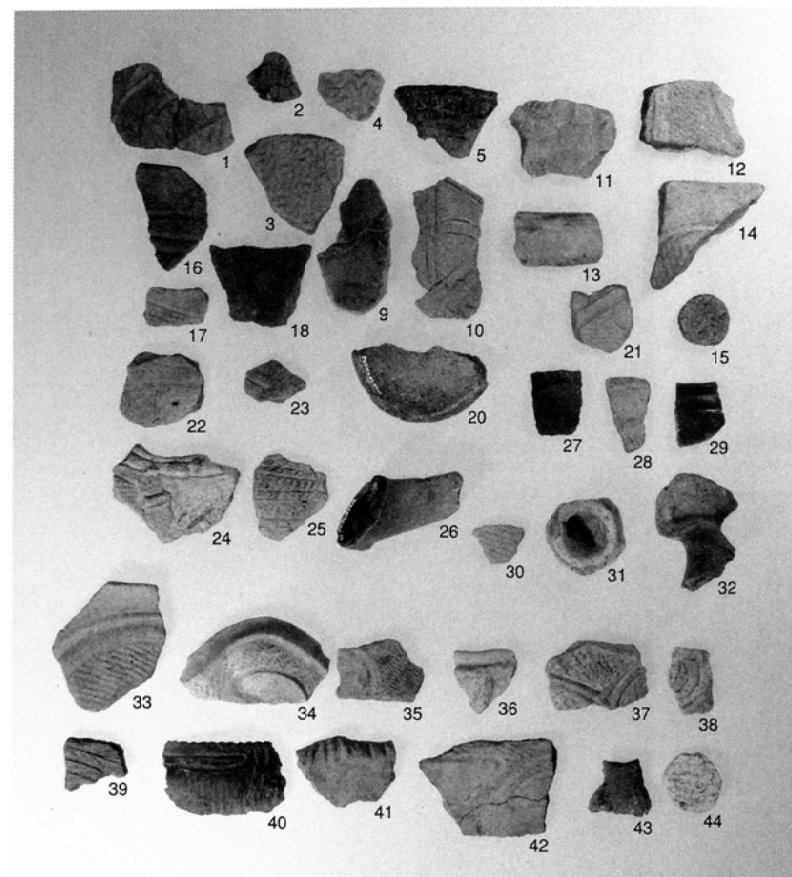


7 SD1サブトレンチ遺物出土状況

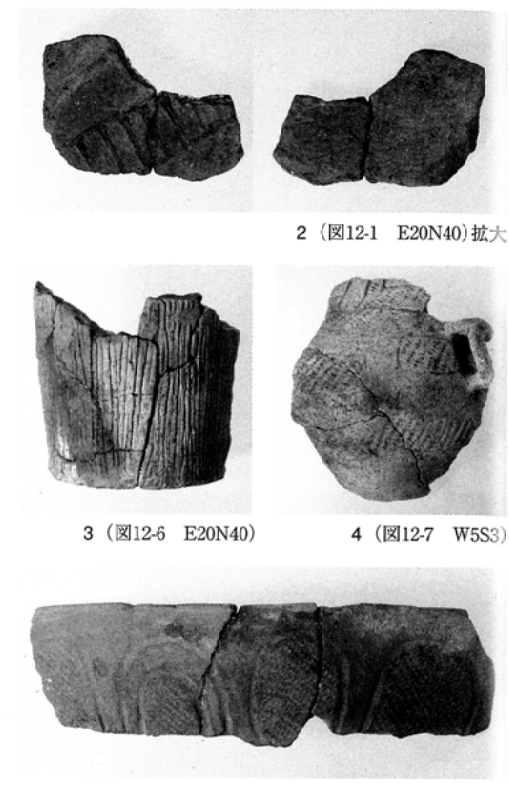


10 SP1半截状況アタリ検出(南から)

第Ⅳ調査区の調査状況



1 試掘坑(高倉林道以南)の出土土器と土製品(図12に対応)



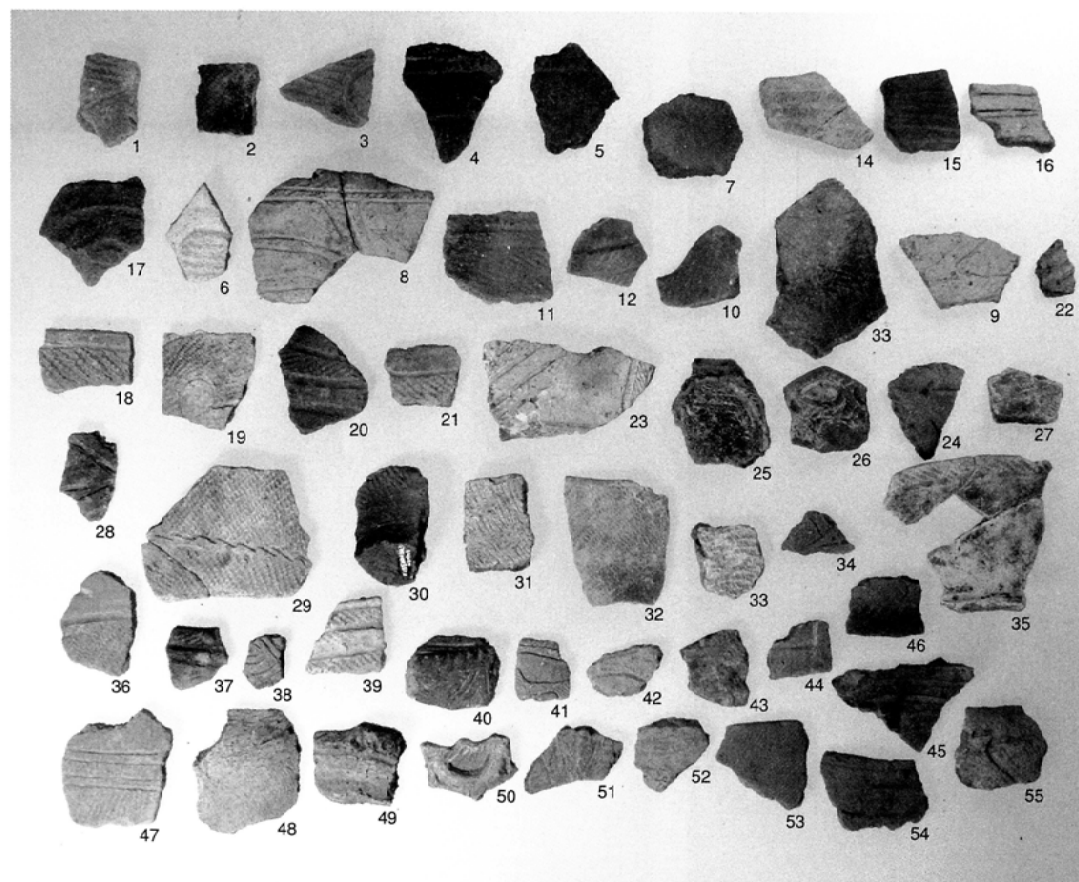
2 (図12-1 E20N40)拡大

3 (図12-6 E20N40)

4 (図12-7 W5S3)

5 8 (図12-8 W5S3)

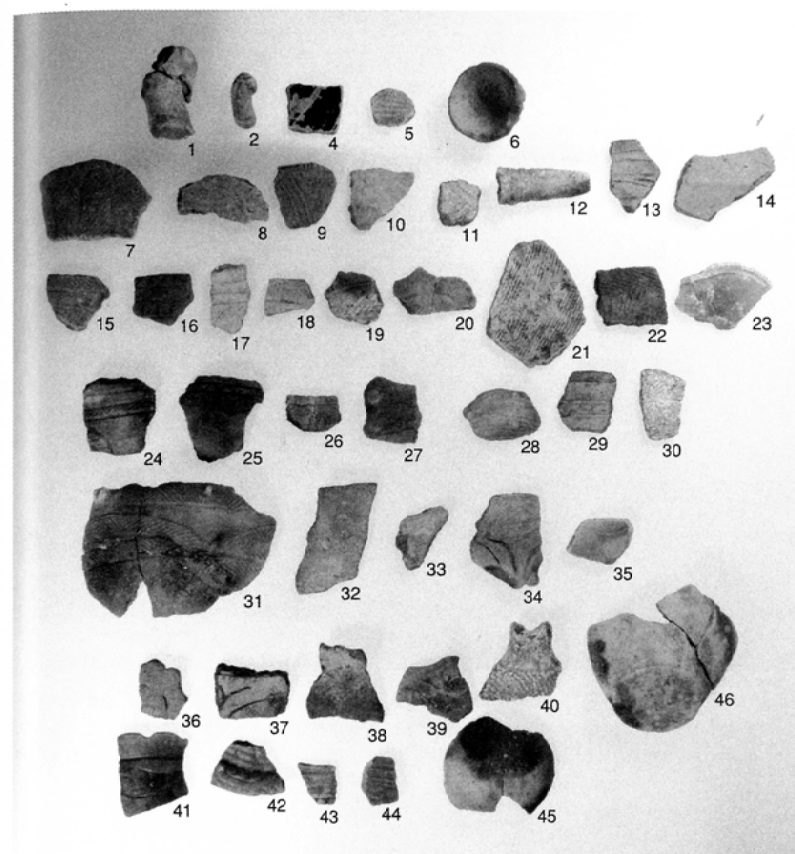
出土試掘坑No
 2(E20N40) 5(E20N40) 9(W5S3) 10(W5S3) 11(W5S3) 12(W5S3) 13(W5S3)
 14(W5S3) 15(W5S3) 16(E20N40) 17(E20N10) 18(E20N20) 19(E30N30)
 20(E20N50) 21(E30N20) 22(E10N20) 23(E20N20) 24(E20N10) 25(E20N10)
 26(W10N30) 27(E30N50) 28(E30N50) 29(E30N50) 30(W10N10) 31(E30N40)
 32(E30N10) 33(E30N40) 34(E30N40) 35(W20N20) 36(E30N40) 37(E30N40)
 38(E30N40) 39(E30N40) 40(E30N40) 41(E30N40) 42(E30N40) 43(E30N40)
 44(E30N40)



出土試掘坑No
 1(W50N80) 2(W60N80)
 3(E10N50) 4(E20N80)
 5(E20N80) 6(E45N90)
 7(E30N80) 8(E30N80)
 9(E30N80) 10(E30N80)
 11(E30N80) 12(E30N80)
 13(E30N80) 14(W40N70)
 15(W40N70) 16(W40N70)
 17(E20N70) 18(W20N70)
 19(W20N70) 20(E20N70)
 21(E20N70) 22(W60N60)
 23(W40N60) 24(W40N60)
 25(W40N60) 26(W40N60)
 27(W40N60) 28(W30N60)
 29(E20N60) 30(E20N60)
 31(E10N60) 32(E25N60)
 33(W60N50) 34(W50N60)
 35(W10N60) 36(EW0N60)
 37(E20N10) 38(E20N10)
 39(W50N50) 40(W50N50)
 41(W50N50) 42(W50N50)
 43(W40N50) 44(W40N50)
 45(W20N60) 46(W20N60)
 47(W50N50) 48(W20N50)
 49(W30N50) 50(W30N50)
 51(W30N50) 52(W30N50)
 53(W30N50) 54(E10N50)
 55(E10N50)

6 試掘坑(高倉林道以北)の出土土器(図13に対応)

試掘坑の出土土器と土製品



1 第I調査区の出土土器と土製品(図14に対応)

出土土器
 5(e3) 6(e2) 7(e3)RP2 8(RP57) 9(a3) 10(d1) 11(g3) 12(g3)RP55 13(a3) 14(e3) 15(f2)
 16(a2) 17(b2) 18(e2) 19(g3) 20(b4) 21(e2) 22(f3) 23(f2)RP123 24(b3) 25(e1) 26(SX5)
 27(c4) 28(f1) 29(e2) 30(g3) 31(e1.e2.d3)RP23.24 32(e2)RP26 33(d1) 34(e2) 35(f2) 36(e2)
 37(a3) 38(f2) 39(e3) 40(e4) 41(a3) 42(c4) 43(b2) 44(c1) 45(d3)



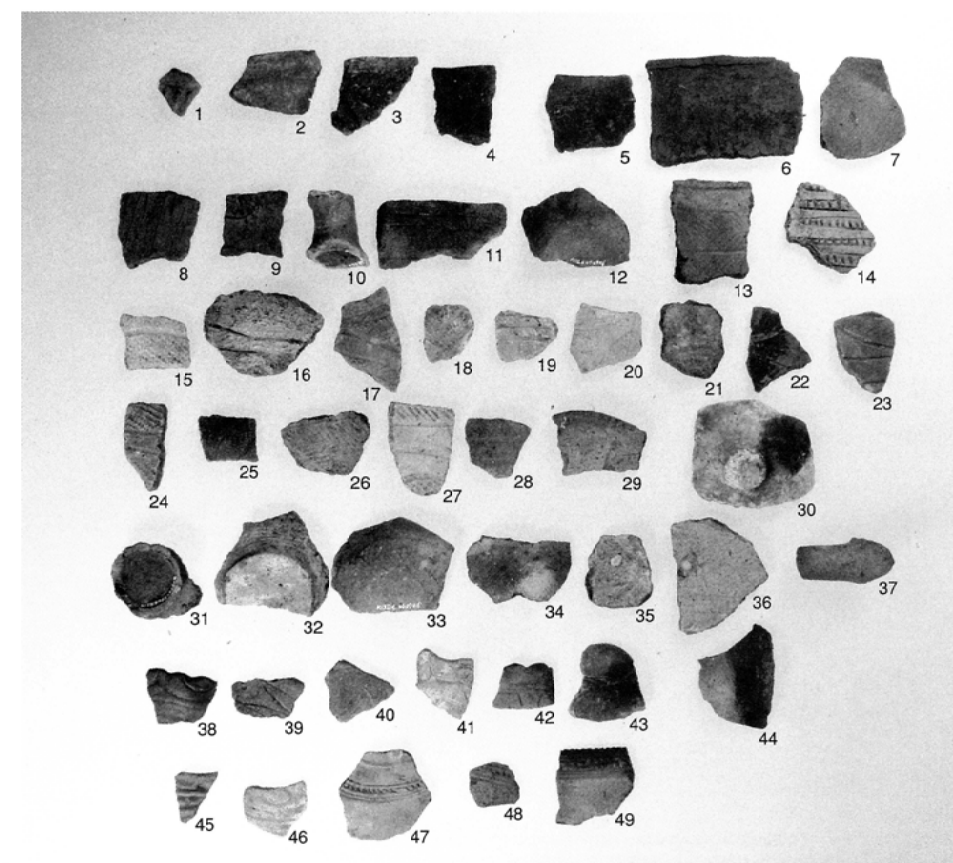
2 耳飾り(図14-3)RP52

3 塗彩土器(図14-4)

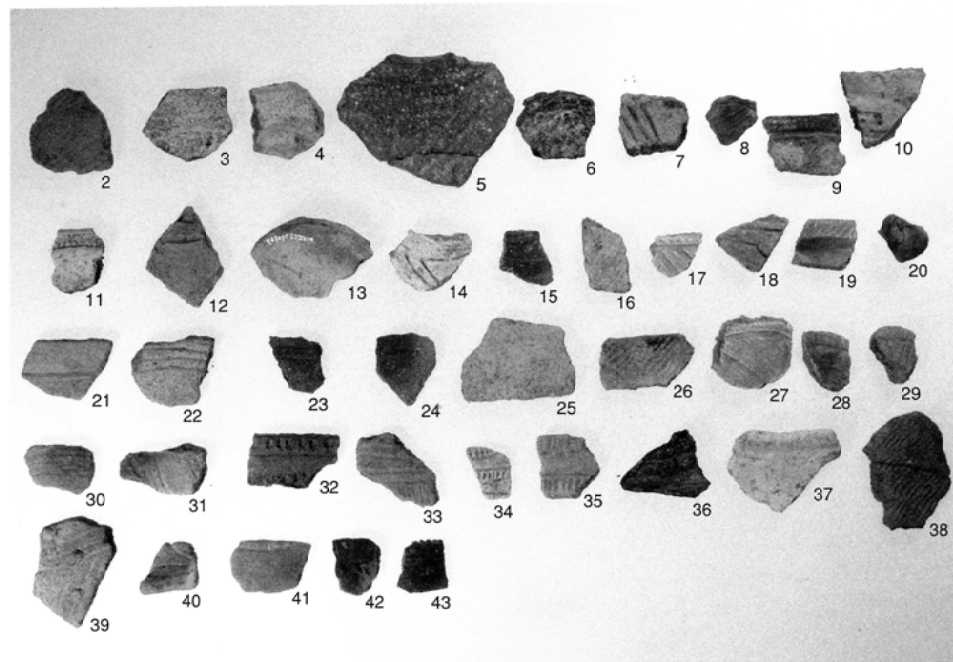
4 土偶腕部(図14-1-2)

出土土器
 1(g13) 2(一括) 3(g12)
 4(一括) 5(h11) 6(h11)RP101
 7(e11) 8(e12) 9(f11) 10(h12)RP115
 11(g12) 12(一括) 13(g2) 14(f11) 15(e12)RP113
 16(g12)RP122 17(h11) 18(h11) 19(g11)
 20(g11) 21(e12) 22(e11) 23(g11) 24(e12)
 25(一括) 26(f12)RP77 27(h11) 28(h11) 29(e11)
 30(一括) 31(g11)RP99 32(e12)RP60 33(一括)
 34(一括) 35(g12) 36(f11) 37(g12)RP120
 38(f13)RP65 39(g11) 40(h11) 41(e13) 42(g11)
 43(一括)44(g11) 45(e11) 46(e11) 47(h12)RP96
 48(f12) 49(g11)

5 第II調査区の出土土器(図15に対応)

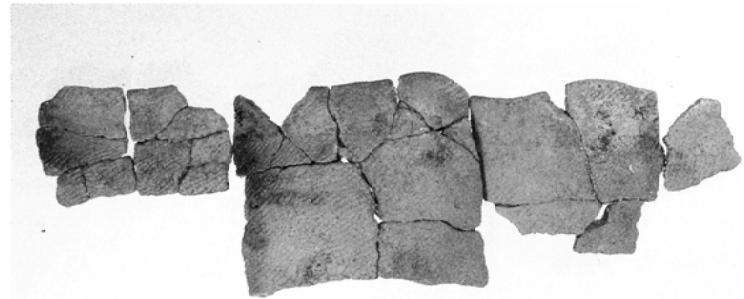


第I・II調査区の出土土器と土製品



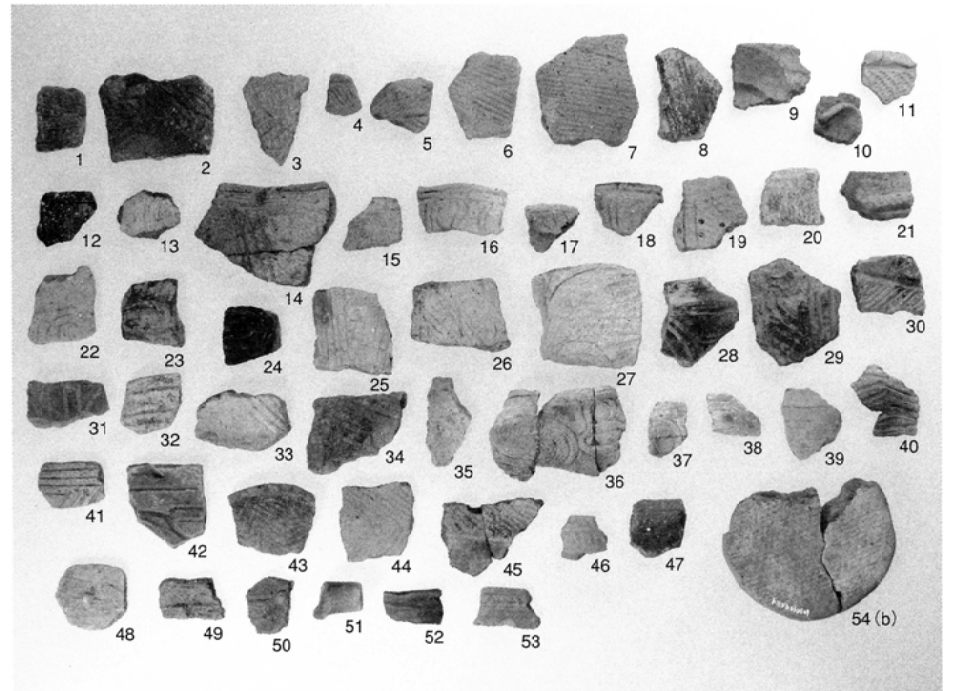
出土小区
 2(a) 3(b) 4(c) 5(g) RP131. (SK2) RP245
 6(SK2) 7(b) 8(b) 9(d) 10(c) 11(SK2)
 12(a) 13(C) 14(C) 15(面整理) 16(a)
 17(d) 18(b) 19(f) RP227 20(g) RP221
 21(SX6) 22(SX6) 23(b3) 24(SP24)
 25(a) 26(b) 27(d) 28(d) 29(b) 30(b)
 31(b) 32(b) 33(d) 34(b) 35(b) 36(SP24)
 37(d) RP132 38(a) 39(e) RP180 40(g)
 41(a) 42(f) RP228 43(g) RP222

1 第Ⅲ調査区の出土土器(図16に対応)



2 接合深鉢形土器(図16-1 SK2)

出土小区
 3(a) RP157 4(g) 5(b) 7(b) 8(a) RP153
 9(a) 10(b) 11(b) 12(b) RP138 13(a)
 14(a) 15(a) RP161 16(g) RP167 17(b)
 18(g) 19(b) 20(b) SD1サブレンヂ 21(a)
 22(b) RP135 23(b) 24(面整理) 25(b) RP136
 26(g) RP169 27(a) RP144 28(b) 29(b) 30(b) RP215
 31(b) 32(b) 33(a) RP156 34(b) 35(b) 36(b)
 37(a) RP162 38(b) 39(b) 40(b) 41(b) 42(g) RP183
 42(g) RP183 43(g) RP180 44(b) 45(a) RP152 46(a)
 47(面整理) 48(c) SX6 49(b) 50(b) 51(a) 52(a)
 53(g) RP176 54(b)



3 第Ⅳ調査区の出土土器(図17に対応)



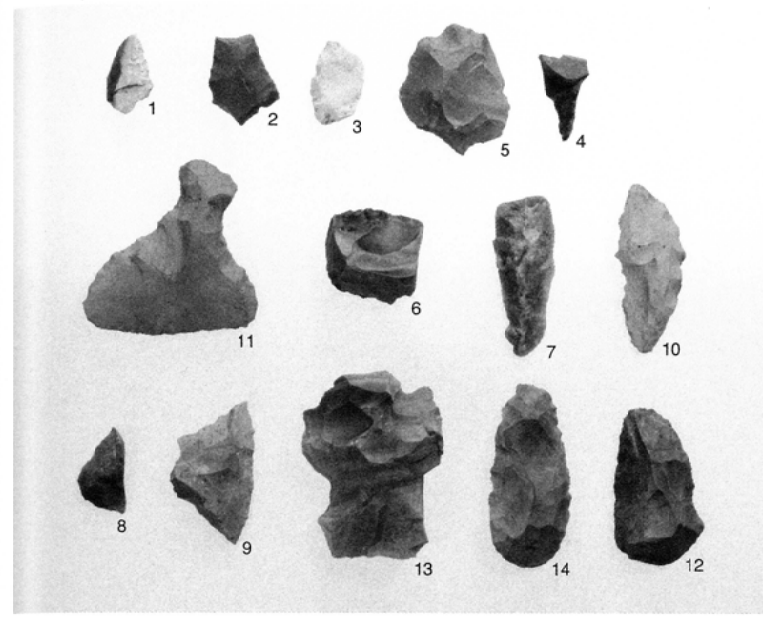
4 (図17-1 e)



5 (図17-2 RP157a)



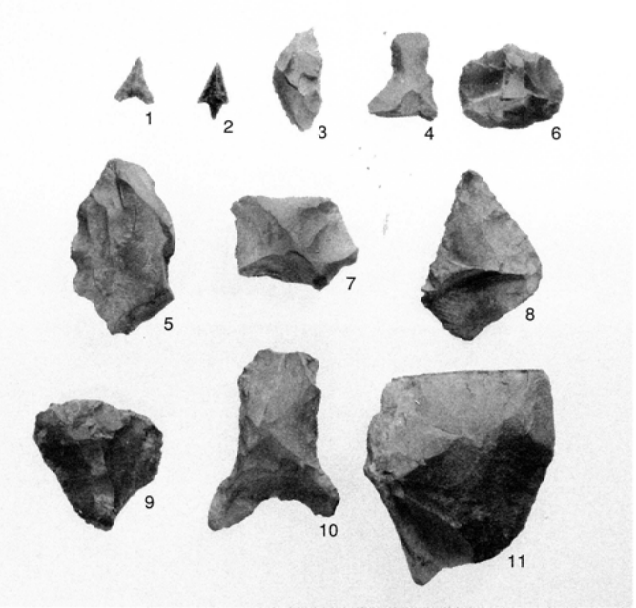
6 (図17-6 g)



1 試掘坑(高倉林道以南)の出土石器
打製石器(図18に対応)

- 石鏃未成品 1~3
- 石鏃 4・5
- 削器 7・9・10
- 搔器 8
- 石匙 11
- 鏡状石器 12・14
- 石核 13
- 楔形石器 6

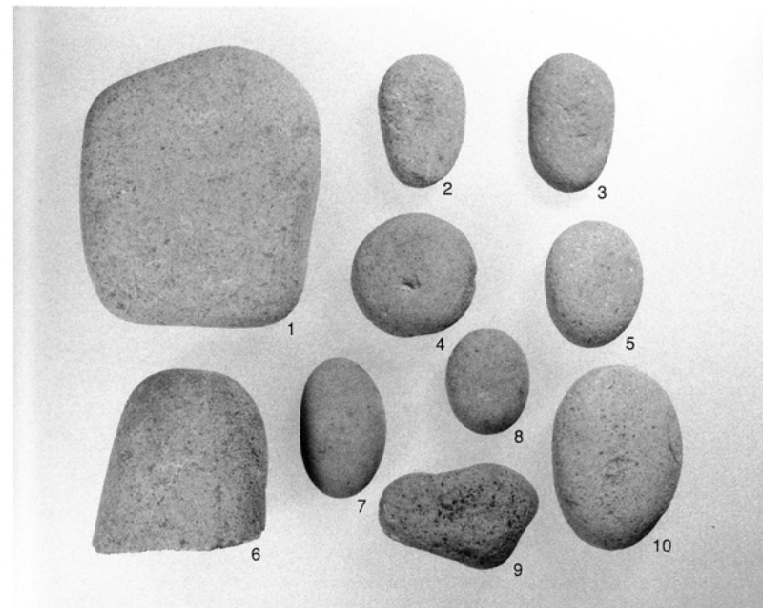
出土試掘坑No.
 1(EW0N50) 2(E30N40) 3(E30N40) 4(W5S3)
 5(W5S3F) 6(E50N10) 7(E20N10) 8(E20N50)
 9(W5S3) 10(E20N35) 11(E30N30) 12(E20N40)
 13(W40N30) 14(E30N30)



2 試掘坑(高倉林道以北)の出土石器
打製石器(図19に対応)

- 石鏃 1・2
- 削器 3・5・8・9
- 石匙 4
- 搔器 6
- 石核 7・11
- 抉入石器 10

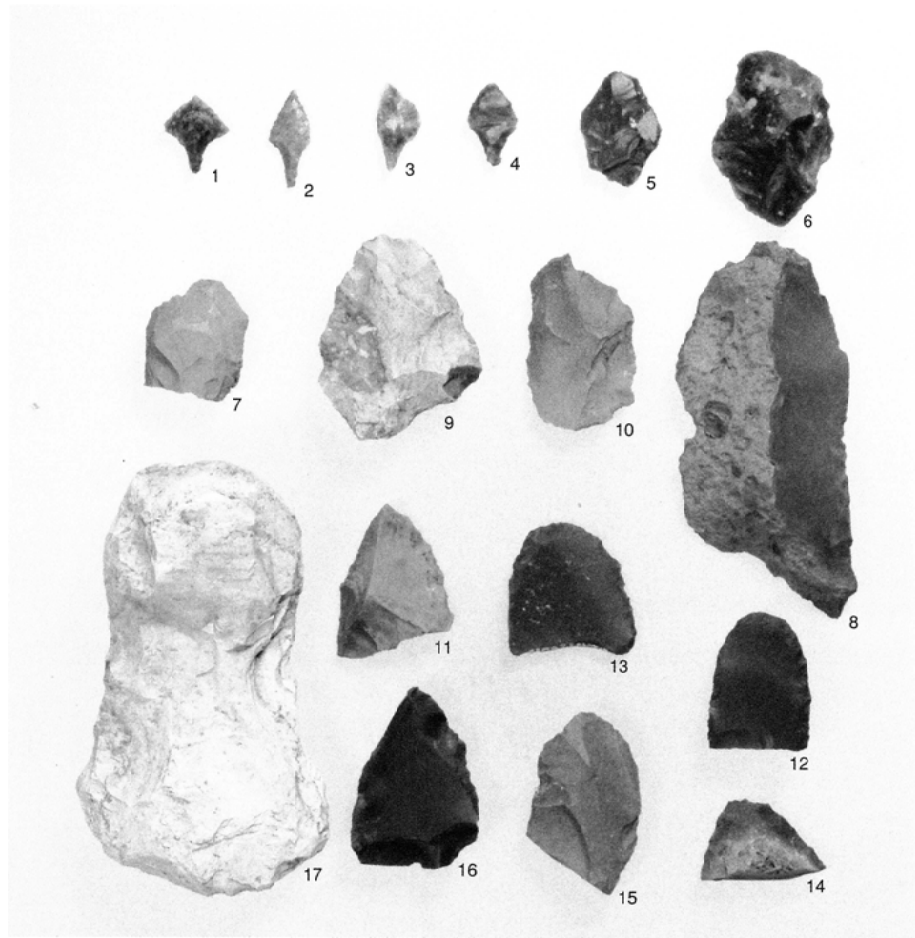
出土試掘坑No.
 1(E10N50) 2(E30N90) 3(W50N50) 4(E25N60)
 5(E10N90) 6(E10N80) 7(W40N70) 8(W30N50)
 9(E25N60) 10(E20N50) 11(E10N50)



3 試掘坑の出土石器
礫石器(図20に対応)

- 石皿 1
- 磨石 8・7
- 凹石 2・4・6・9・10
- 敲石 5

出土試掘坑No.
 1(W5S3) 2(W5S3) 3(W5S3) 4(W30N30) 5(E30N40)
 6(E20N10) 7(E20N70) 8(E10N60) 9(E10N50) 10(E45N90)



1 第I調査区の出土石器
打製石器(図21に対応)

- 石鏃 1~4
- 石鏃未成品 5~7
- 刮器 8~10
- 11・15・16
- 搔器 12~14
- 打製石斧 17

出土小区
1(d3) 2(f1)RQ16 3(e2)RQ184 4(RQ70) 5(f2)
6(e3)RQ25 7(a2) 8(a1) 9(g3) 10(SP3) 11(a2)
12(a4)RQ10 13(a2)RQ9 14(a2) 15(f2) 16(e3)RQ27
17(IS)



2 第I調査区の出土石器
打製石器(図22に対応)

- 石匙 18・19・20・21
- 石核 23~25

出土小区
18(f1)RQ41 19(b1) 20(B2)RQ5 21(g2)RQ12
22(g2) 23(e3) 24(d4)RQ11 25(e2)RQ48

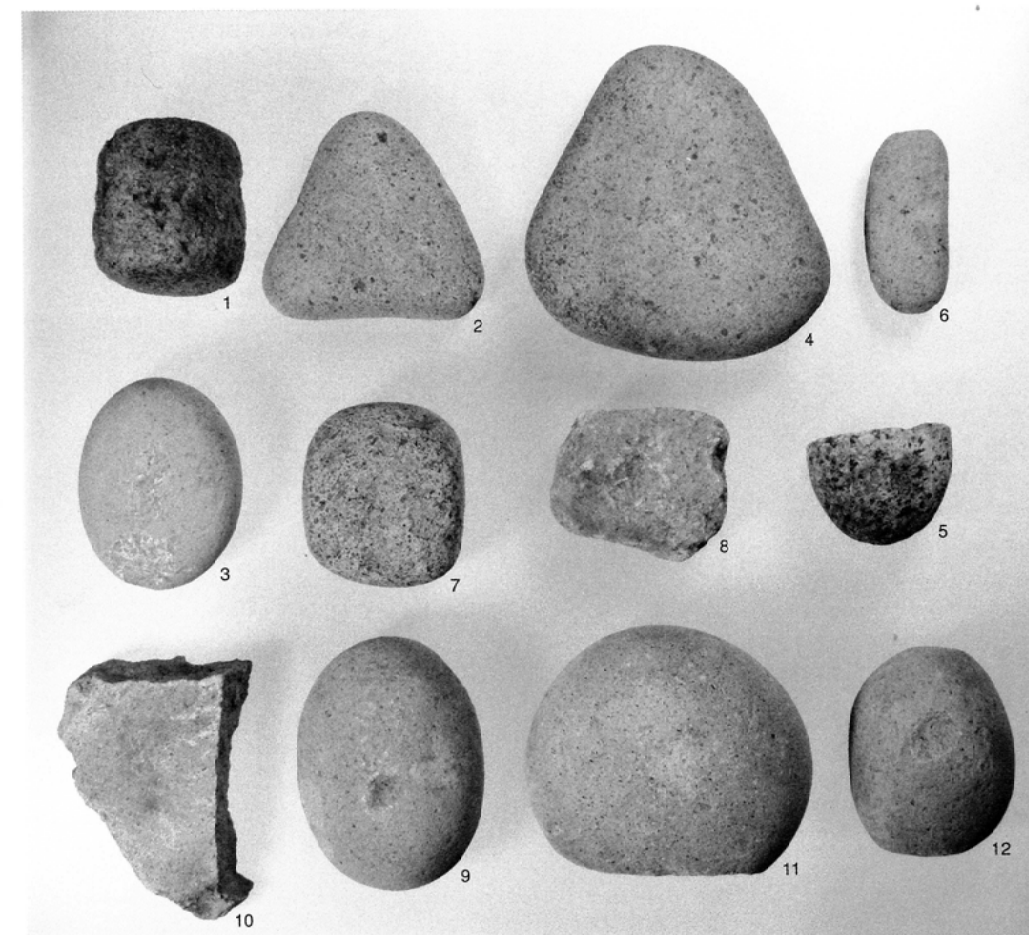
第I調査区出土の石器 打製石器



1 第II調査区の出土石器
打製石器(図23に対応)

- 石鏃 1~3
- 石鏃未成品 4~6・8
- 刮器 7・9・10・20
- 石匙 14・15
- 石鏃 11・12
- 筒状石器 16
- 石核 19
- 楔形石器 17・18

出土小区
1(e12)RQ84 2(e13)RQ87 3(g12)RQ142
4(f11)RQ71 5(g12) 6(f11)RQ69 7(f11)
8(一括) 9(f11)RQ75 10(g13) 11(e11)
12(一括) 13(f11)RQ83 14(e12)RQ88
15(g11)RQ100 16(h11)RQ102 17(e11)
18(e11) 19(e11)RQ103 20(e11)RQ99

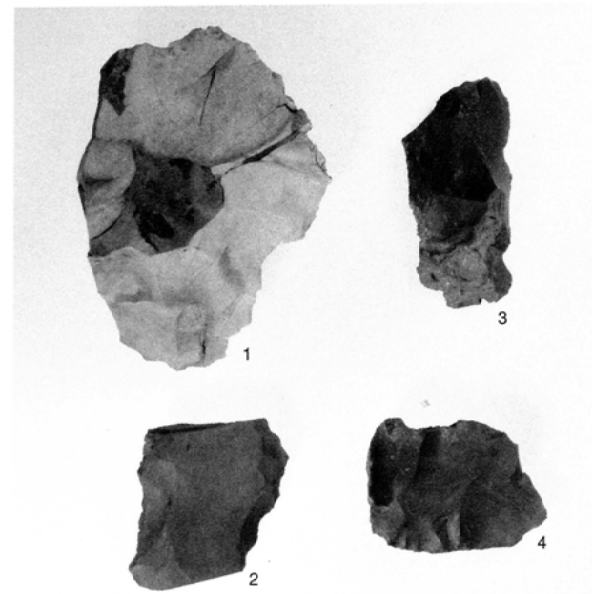


2 第I・II調査区の
出土石器
礫石器(図24に対応)

- 石皿 2・4・10
- 磨石 11
- 凹石 1・3・5・7・8
- 9・12
- 蔽石 6

出土小区
1(I・e2)RQ49 2(I・e2)RQ54
3(I・f2)RQ59 4(I・g3)
5(II-f11)RQ72 6(II-g11)RQ113
7(I-al) 8(I-e2)
9(I-e2)RQ50 10(II-h12)RQ125
11(II-f11)RQ65 12(II-h12)RQ132

第II調査区出土の打製石器と第I・II調査区出土の礫石器



1 第Ⅲ調査区の出土石器(1)
打製石器(図25に対応)

石核 1~4

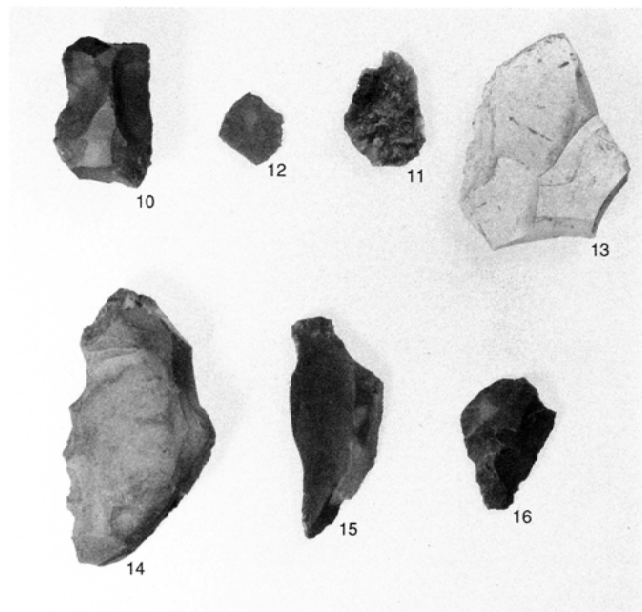
出土小区
1(Ⅲ・g)RQ208 2(Ⅲ・a)RQ164
3(Ⅲ・g)RQ205 4(Ⅲ・d)RQ151



2 第Ⅲ調査区の出土石器(2)
打製石器(図26に対応)

石鏃未成品 1~3
石鏃 4
石匙 5・6
削器 7・8

出土小区
1(Ⅲ・g)RQ218 2(Ⅲ・g) 3(Ⅲ・a)
4(Ⅲ・d) 5(Ⅲ区南方林道壁面精査)
6(Ⅲ・g)RQ210 7(Ⅲ・SK2)
8(Ⅲ・g3) 9(Ⅲ・g)RQ216



3 第Ⅳ調査区の出土石器
打製石器(図26に対応)

削器 10・13・14
石鏃未成品 11・12
石匙 15
搔器 16

出土小区
10(Ⅳ区西壁面) 11(Ⅳ・f)RQ201 12(Ⅳ・a)RQ189
13(Ⅳ・e) 14(Ⅲ・g) 15(Ⅳ・a)RQ189
16(Ⅳ・g)RQ176

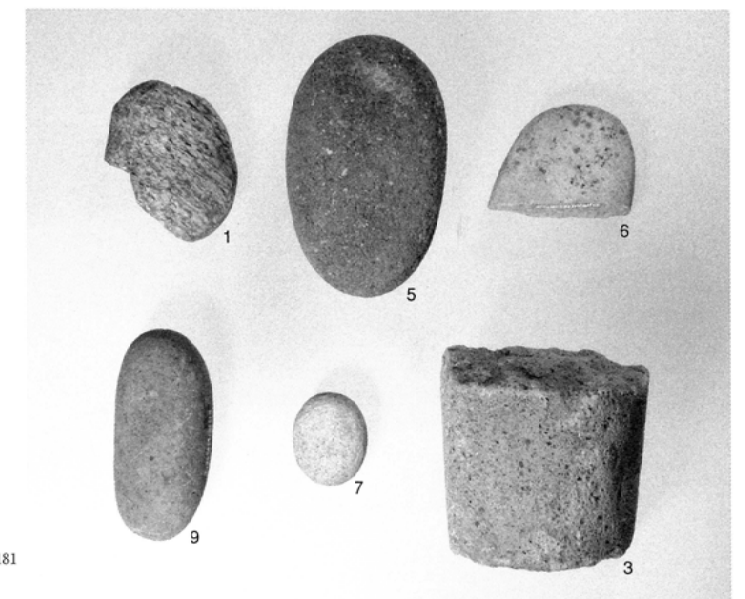
第Ⅲ・Ⅳ調査区出土の石器 打製石器



1 第Ⅲ・Ⅳ調査区の出土石器(1)
礫石器(図27に対応)

石皿 2・4・8・10

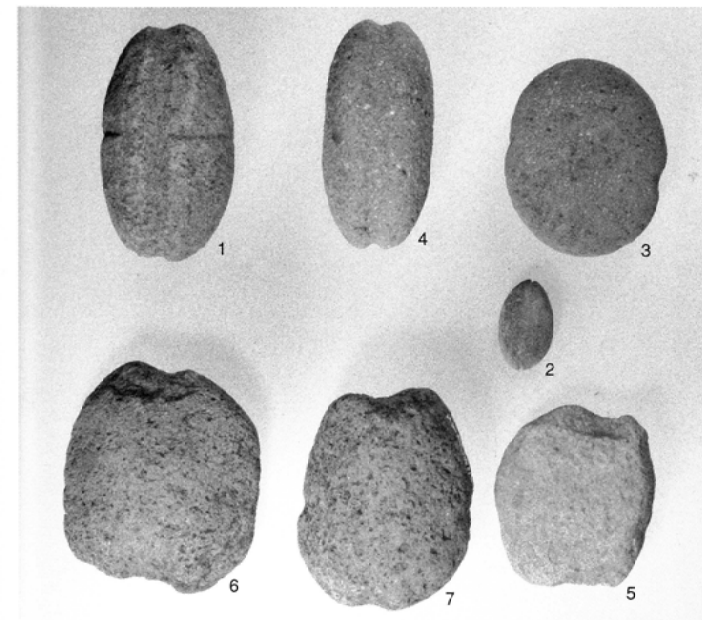
出土小区
2(Ⅲ・c)RQ170 4(Ⅲ・a)RQ168
8(Ⅳ・g)RQ199 10(Ⅳ・g)RQ200



2 第Ⅲ・Ⅳ調査区の出土石器(2)
礫石器(図27に対応)

磨石 1・3(柱状)・6
凹石 5
敲石 7・9(凹石供用)

出土小区
1(Ⅲ・c) 3(Ⅲ・d)RQ152 5(Ⅲ・e)RQ181
6(Ⅳ・g)RQ193 7(Ⅳ・g)RQ198
9(Ⅲ・a)RQ163

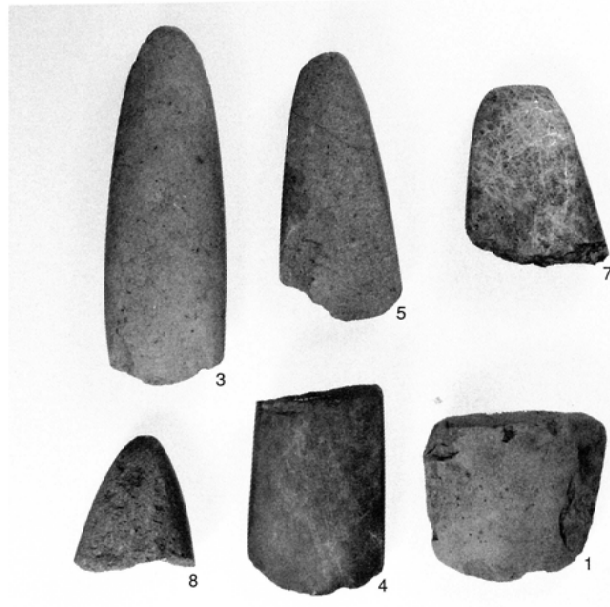


3 第Ⅰ~Ⅳ調査区と試掘坑の出土石器
礫石器(図28に対応)

有溝石鏃 1・4
切目石鏃 2
礫石鏃 5~7

出土試掘坑No及び小区
1(W5S3) 2(Ⅳ・b)RQ185
3(I・a3) 4(E30N40)
5(E20N40)RQ179
6(Ⅱ・g11)RQ108
7(Ⅱ・f11)RQ127

試掘坑と第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ調査区出土の石器 礫石器



1 試掘坑及び第Ⅰ～Ⅲ区の出土石器
磨製石器(図29に対応)

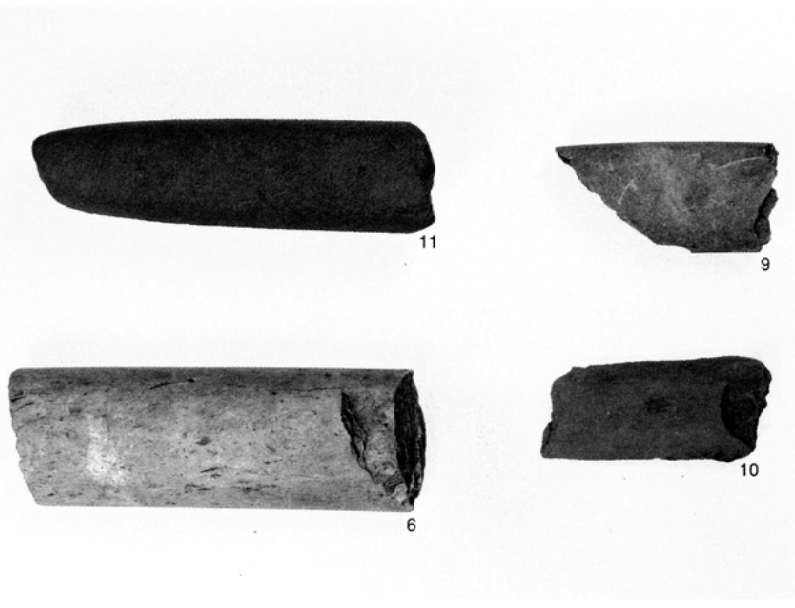
磨製石斧 3~5・7・8
磨製石斧未成品 1



試掘坑No.及び出土小区
1(Ⅲ・b)RQ178 3(Ⅲ・g)RQ223
4(Ⅱ・g12)RQ79 5(Ⅱ・g11)RQ91
7(Ⅰ・RQ191) 8(W30N70)

2 第Ⅱ調査区の出土石器
磨製石器(図29に対応)

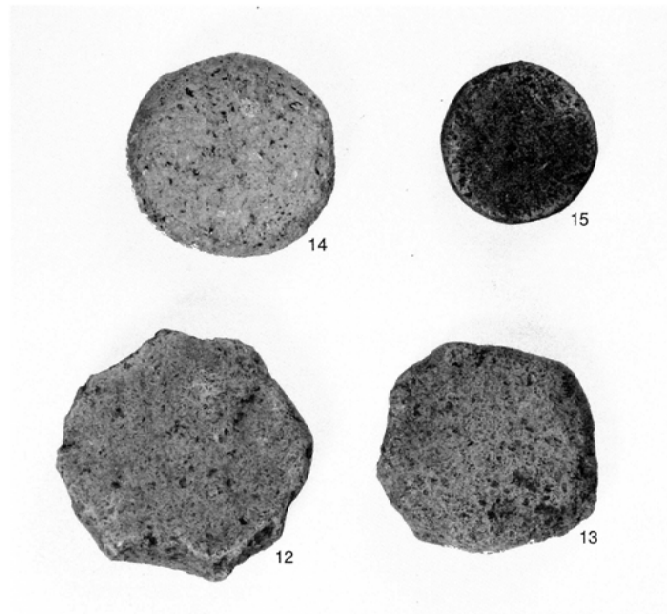
小型磨製石斧 2



3 第Ⅰ・Ⅱ調査区の出土石器
石製品(図29に対応)

石刀 9
石棒 9・10・12

出土小区
6(Ⅰ・e2)RQ31 9(Ⅰ・f1)RQ40
10(Ⅱ・g11)RQ114 11(Ⅰ・b3)RQ8



4 第Ⅰ・Ⅱ調査区の出土石器
石製品

円盤状石製品(打製) 12・13
円盤状石製品(磨製) 14・15

出土小区
12(Ⅰ・a3)RQ62 13(Ⅰ・f2)RQ38
14(Ⅱ・f11)RQ127 15(S)

試掘坑と第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ調査区出土の石器 磨製石器・石製品

付 編

放射性炭素年代測定結果報告書

(AMS測定)

小山崎遺跡

(株)加速器分析研究所

(1) 遺跡の位置

小山崎遺跡は、山形県飽海郡遊佐町吹浦字七曲・七曲堰東・柴燈林（北緯 $39^{\circ} 04' 23''$ 、東経 $139^{\circ} 53' 25''$ ）に所在する。烏海山南西麓末端の台地上に立地する。

(2) 測定の意義

小山崎遺跡は、縄文時代早期から晩期にかけての低湿地遺跡である。水場遺構等の縄文時代後期の居住地の探索が近年の調査課題のひとつであり、検出された遺構が縄文時代後期に属することを証明する資料としたい。

(3) 測定対象試料

測定対象試料No.1は、炭化物を含む土壌（IAAA-62435）である。小山崎遺跡の第13次調査、第Ⅲ調査区に隣接する高倉林道壁面で検出された土坑の埋土4a層から出土した。

(4) 化学処理工程

- 1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- 2) AAA (Acid Alkali Acid) 処理。酸処理、アルカリ処理、酸処理により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では1Nの塩酸(80℃)を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では0.001~1Nの水酸化ナトリウム水溶液(80℃)を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸(80℃)を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。
- 3) 試料を酸化銅1gと共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃で30分、850℃で2時間加熱する。
- 4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素(CO₂)を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出(還元)し、グラファイトを作製する。
- 6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着し測定する。

(5) 測定方法

測定機器は、3MVタンデム加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。134個の試料が装填できる。測定では、米国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOxⅡ)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。また、加速器により¹³C/¹²Cの測定も同時に行う。

(6) 算出方法

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用した。
- 2) BP年代値は、過去において大気中の炭素14濃度が一定であったと仮定して測定された、1950年を基準年として遡る放射性炭素年代である。
- 3) 付記した誤差は、次のように算出した。
複数回の測定値について、 χ^2 検定を行い測定値が1つの母集団とみなせる場合には測定値の統計誤差から求めた値を用い、みなせない場合には標準誤差を用いる。
- 4) $\delta^{13}\text{C}$ の値は、通常は質量分析計を用いて測定するが、AMS測定の場合に同時に測定される $\delta^{13}\text{C}$ の値を用いることもある。
 $\delta^{13}\text{C}$ 補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載する。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差(‰:パーミル)で表した。

$$\delta^{14}\text{C} = [({}^{14}\text{A}_S - {}^{14}\text{A}_R) / {}^{14}\text{A}_R] \times 1000 \quad (1)$$

$$\delta^{13}\text{C} = [({}^{13}\text{A}_S - {}^{13}\text{A}_{\text{PDB}}) / {}^{13}\text{A}_{\text{PDB}}] \times 1000 \quad (2)$$

ここで、 ${}^{14}\text{A}_S$: 試料炭素の ${}^{14}\text{C}$ 濃度: $({}^{14}\text{C}/{}^{12}\text{C})_S$ または $({}^{14}\text{C}/{}^{13}\text{C})_S$

${}^{14}\text{A}_R$: 標準現代炭素の ${}^{14}\text{C}$ 濃度: $({}^{14}\text{C}/{}^{12}\text{C})_R$ または $({}^{14}\text{C}/{}^{13}\text{C})_R$

$\delta^{13}\text{C}$ は、質量分析計を用いて試料炭素の ${}^{13}\text{C}$ 濃度(${}^{13}\text{A}_S = {}^{13}\text{C}/{}^{12}\text{C}$)を測定し、PDB(白亜紀のベレムナイト(矢石)類の化石)の値を基準として、それからのずれを計算した。但し、加速器により測定中に同時に ${}^{13}\text{C}/{}^{12}\text{C}$ を測定し、標準試料の測定値との比較から算出した $\delta^{13}\text{C}$ を用いることもある。この場合には表中に「加速器」と注記する。

また、 $\Delta^{14}\text{C}$ は、試料炭素が $\delta^{13}\text{C} = -25.0$ (‰)であるとしたときの ${}^{14}\text{C}$ 濃度(${}^{14}\text{A}_N$)に換算した上で計算した値である。(1)式の ${}^{14}\text{C}$ 濃度を、 $\delta^{13}\text{C}$ の測定値をもとに次式のように換算する。

$${}^{14}\text{A}_N = {}^{14}\text{A}_S \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000))^2 \quad ({}^{14}\text{A}_S \text{として} {}^{14}\text{C}/{}^{12}\text{C} \text{を使用するとき})$$

または

$$= {}^{14}\text{A}_S \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000)) \quad ({}^{14}\text{A}_S \text{として} {}^{14}\text{C}/{}^{13}\text{C} \text{を使用するとき})$$

$$\Delta^{14}\text{C} = [({}^{14}\text{A}_N - {}^{14}\text{A}_R) / {}^{14}\text{A}_R] \times 1000 \quad (\text{‰})$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については、海洋中の放射性炭素濃度が大気中の炭酸ガス中の濃度と異なるため、同位体補正のみを行った年代値は実際の年代との差が大きくなる。多くの場合、同位体補正をしない $\delta^{14}\text{C}$ に相当するBP年代値が比較的よくその貝と同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致する。

${}^{14}\text{C}$ 濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として、pMC(percent Modern Carbon)がよく使われており、 $\Delta^{14}\text{C}$ との関係は次のようになる。

$$\Delta^{14}\text{C} = (\text{pMC} / 100 - 1) \times 1000 \quad (\text{‰})$$

$$\text{pMC} = \Delta^{14}\text{C} / 10 + 100 \quad (\text{‰})$$

国際的な取り決めにより、この $\Delta^{14}\text{C}$ あるいはpMCにより、放射性炭素年代(Conventional Radiocarbon Age; yrBP)が次のように計算される。

$$T = -8033 \times \ln[(\Delta^{14}\text{C} / 1000) + 1]$$

$$= -8033 \times \ln(\text{pMC} / 100)$$

- 5) ${}^{14}\text{C}$ 年代値と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示する。
- 6) 較正暦年代の計算では、IntCal04データベース(Reimer et al 2004)を用い、OxCalv3.10較正プログラム(Bronk Ransey1995 Bronk Ransey2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger2001)を使用した。

(7) 測定結果

高倉林道壁面検出土坑から出土した試料(IAAA-62435)の ${}^{14}\text{C}$ 年代は、 3310 ± 30 yrBPである。暦年較正年代(1 σ)は1625BC~1525BC(68.2%)であり、縄文時代後期後半に相当する。化学処理および測定内容に問題は無く、妥当な年代と考えられる。

参考文献

- Bronk Ramsey C.(1995) Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, Radiocarbon, 37(2) 425-430
- Bronk Ramsey C.(2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon, 43(2A) 355-363
- Bronk Ramsey C., J. van der Plicht and B. Weninger(2001) 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, Radiocarbon, 43(2A) 381-389
- Reimer et al.(2004) IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP. Radiocarbon 46, 1029-1058

報告書抄録

ふりがな	こやまざきいせきだいじゅうさんじはくつちようさほうこくしょ							
書名	小山崎遺跡第13次発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	遊佐町埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第6集							
編著者名	佐藤 禎宏・大川 貴弘							
編集機関	山形県遊佐町教育委員会							
所在地	〒999-8301 山形県飽海郡遊佐町遊佐字舞鶴211番地							
発行年月日	2007年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東緯	調査機関	調査面積 m ²	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
こやまざきいせき 小山崎遺跡	やまがたけんあくみ 山形県飽海 ぐんゆざまぢふく 郡遊佐町吹 らあざななまの 浦字七曲・ ななびりせきりがし 七曲堰東・ さいとうぼかし 柴燈林	461	2214	39度 04分 18秒	139度 53分 26秒	20060628 ~ 20060914	267.0	重要遺跡 確認のた めの学術 調査。
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
集落跡	縄文時代 早期後葉 前期 中期 後期 晩期前葉	試掘坑 集落跡関連遺構 (柱穴・土坑等) 第I・II・IV調査区 集落跡関連遺構 (柱穴・土坑等)	縄文土器(早期後 葉~晩期前葉) 土製品(土偶部位 ・耳飾・円盤) 石器(打製・磨製 ・礫石器) 石製品(石刀・石 棒・円盤)	低湿地区北側の山 麓傾斜面部一帯に、 縄文時代後期を主 体とする集落関連 遺構が広範囲に多 数検出された。遺 跡の下限が早期後 葉まで遡ることが 確認された。				

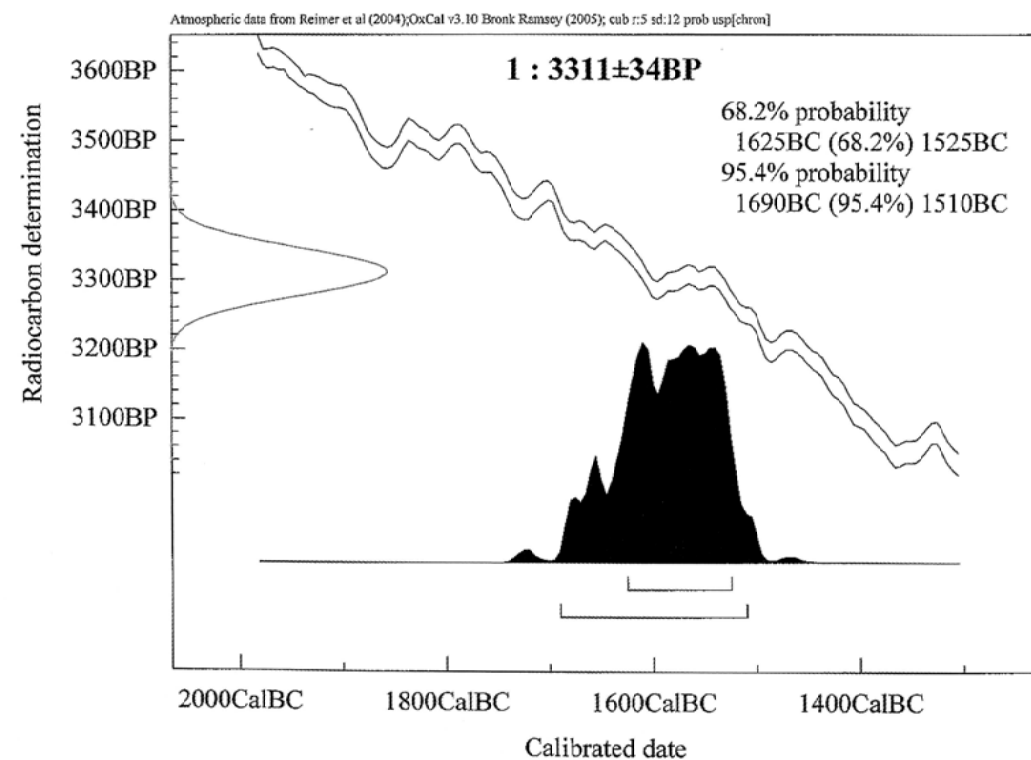
IAA Code No.	試料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-62435	試料採取場所：山形県飽海郡遊佐町吹浦 字紫燈林 小山崎遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：1	Libby Age (yrBP) : 3310± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -28.29± 0.73 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -337.8± 2.8 pMC (%) = 66.22± 0.28
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -342.3± 2.6 pMC (%) = 65.77± 0.26 Age (yrBP) : 3370± 30
#1592		

参考資料：暦年較正用年代

IAA Code No.	試料番号	Libby Age (yrBP)
IAAA-62435	1	3311 ± 34

ここに記載する Libby Age (年代値) と誤差は下1桁を丸めない値です。

【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



使用プログラム・OxCal v3.10

遊佐町埋蔵文化財調査報告書 第6集
小山崎遺跡第13次発掘調査報告書

平成19(2007)年3月31日発行

編集 小山崎遺跡発掘調査団 佐藤 禎宏 大川 貴弘
発行 遊佐町教育委員会
〒999-8301 山形県飽海郡遊佐町遊佐字舞鶴211
TEL (0234)-72-5892 FAX (0234)-72-3314
印刷 株式会社 小松写真印刷
酒田市京田2-59-3

Yuza Town Archaeological Records No.6

KOYAMAZAKI SITE 2006

Yoshihiro SATOH and Takahiro OHKAWA eds.

March 2007

Yuza-machi the Board of Education, Yamagata Prefecture, Japan